



人類はひとつ 世界中に友情の
橋をかけよう

MANKIND IS ONE- Build Bridges of Friendship
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員70名 出席51名 出席率72.86% 前回出席率74.29% 修正出席57名 確定出席率81.43%

ゲストスピーチ

国鉄の現状と課題について

鶴岡駅長 飛田昭造氏

今日は国鉄の現状ということでお話しをしてと云うことで、次の4点についてお話し申し上げたいと思います。

1. 国鉄の現状

昔国鉄と申しますと青少年の憧れの的でしたが、今の国鉄は、膨大な赤字をかかえている企業でありますし、サービスが悪い、運賃が高い企業だとも云われ、それから働き度が悪いとも云われております。それでは国鉄の赤字はどの位なのか、業務量はどうかと申しますと、56年度には約1兆7千億円の赤字を計上致すこととなります。国鉄が赤字に転落したのは、昭和39年からで、業務量が前年を割ったのは、旅客は49年以来で、貨物については45年からでございます。ここで全国データでなくて身近な鶴岡駅のデータで説明申し上げますと、48年を100とした場合の56年の数値は、普通乗車人員では40.3%、1日に1,000人落込んでいたり、定期乗車券は54.7%1日約1,900人の落込み、貨物では発送噸数で41%落込んでしまいました。何故この様に国鉄離れが起きたのかと申しますと、道路網の整備による自動車の発達及び時間の節約というニーズにあった航空機の発達等、国の輸送体形が大きく変化したことと、国鉄が世の中の発展変化に速に対応していなかったことが挙げられ、又あまりにも運賃料金が高くなり輸送コストが高くなったこと、大別すれば3つがあります。

2. 何故国鉄が、国民から注視されるのか。

今国鉄は国民の皆様の厳しい批判を浴びておりますが、先づ職場規律の問題が挙げられておりますが、何故国鉄が国民の注視になっているかと云うと、国鉄が国民の足として、極めて密着していること、国鉄の赤字がただちに国民の皆さんの負担となることです。具体的に云えば税金が増えることです。国鉄は今政府から財政補助金7千3百億円の補助を受けております。国民が約1億人とすると、1人当り年間7千円の税の負担を願っていると云うことです。このように税のご負担を願

いながら、1兆円という赤字をかかえているのが国鉄の現状であります。

3. 国鉄はこの財政危機をどう打開するか。

国鉄の経営改善には、輸送量の増を計り、運賃の改正、業務の効率化、国の助成を願うことの四つが考えられますが、現段階では、輸送量の増、運賃改訂は望みなく、残された国鉄自身の効率化しかございません。国鉄労使の「親方日の丸」的甘えの改革が是非必要であります。遅まきながら国鉄は意識改革の気運が高まりまして、従来の悪慣習の是正に取り組んでおります。サービスにも配慮する意識改革を行い、次に大きな問題である企業努力をして行くつもりであり、積極的な施策による収入の確保、そして輸送コストの低減を計るということで、徹底した効率化、合理化を計るために、都市間輸送、大都市圏旅客輸送、大量定型貨物輸送については、安全、大量、法則という鉄道の特性を生かしてゆくは勿論反面鉄道の特性を発揮し難い地方線区については、徹底したコストの低減化を計ることにしております。その為には昭和60年度までに職員数を32万人以下にしなければなりませんし、来年度は新規採用を中止し、本年11月のダイヤ改正には大きな合理化を実施することに致しております。

4. 新幹線時代の庄内

本年11月に開業致します上越新幹線の利便性は、新潟・上野間に初めて急行が走ったのは、昭和27年10月で、所要時間は6時間でありました。その後37年6月に特急が走り4時間40分で運行されましたが、本年11月に新幹線の開業となり、新潟ー上野間は1時間45分に縮まってきたという驚異的なスピードアップで、従来鶴岡から東京は日帰りができませんでしたが、今度は東京滞在時間が約4時間、従いまして多少のビジネスであれば、日帰圏に入った訳です。そして新幹線開業後の庄内はどのように変化するかと申しますと、新幹線によって時間距離が短縮され、今まで以上に旅行の足が延びると思われれます。新潟県の観光地よりも、出羽三山、海、温泉のある庄内の観光地が見直され、関東圏、中京圏、関西圏の観光客が庄内地方に来ると思います。観光客はより時間が短く、しかも遠くへ行ってたくさん観光地を廻りたいという心理が有りますので、私達国鉄は新幹線の効率を挙げるために、庄内へ観光客の誘致に取組み、庄内の経済発展に寄与したいと考えております。

庄内空港の建設を推進しましょう

会長報告

中江 亮君

○本日は報告事項は特にございませぬ。本日のゲストとしてお出で頂いた飛田鶴岡駅長さんのスピーチが始まるまでの間、ロータリー談義をご自由にして下さい。

尚、年次大会の事やら、地区の動静についてご質問がありましたら、佐藤忠大会幹事、小松広穂地区幹事が居られますので、ご遠慮なくご質問下さい。

幹事報告

佐藤 元伸君

1. 会報到着

鶴岡西R.C. 山形南R.C. 山形北R.C.
山形西R.C. 山形R.C. 柏西R.C.
柏南R.C. 東京R.C. 立川R.C.

2. 1982～1983 活動計画書 鶴岡西R.C.より参っております。

3. R.I. 第252地区年次大会のご案内
昭和57年10月9日(土)～10日(日)
仙台市民会館
仙台R.C.

4. 前会員の菅氏の送別会のご案内
日時 8月19日 午後6時
場所 中国飯店
登録料 3,000円

5. ロータリークラブ会員証を本日会員の皆様に配布致しました。

大会事務局よりのお知らせ

佐藤 忠君

○大会の準備も着々進んでおりまして、各クラブからの登録申し込みの方も集まっております、20日をもってメ切りますが、私共のクラブの会員の皆様をお願い致したいのは、ご婦人を準義務出席という形で是非ご参加願いたいと存じます。

2日間ご都合の悪い方もおられましようが、もしご都合のつかないときは、せめて1日でも大会のムードにひたって頂きたいと考えております。後程クラブの方から出欠のご案内があると思いますが、1日の本会議の部と、夜のR.I.会長代理を囲む晩餐会、2日の本会議の部に多数ご参加頂く為に、9月中旬頃にご婦人方の会合を開いて、大会について色々ご相談申し上げたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

地区主催の拡大セミナー出席報告

副会長 川村 徳男君

○8月8日(日)、福島で行われた拡大セミナーは、

参加者が各クラブの会長と分区代理で、こういったセミナーは初めてということでした。

内容は、会員増強と外部拡大(新しいクラブの創設)とロータリー財団増強の3つのテーマで行われました。

◎会員の増強については=これまでも繰り返されていることと思いますが、職業分類の整理、未充填の充填、特に増強の方法として、アディショナル正会員、シニアアクティブ会員、パストサービス会員の制度をもっと活用して欲しいと云うこと及び手続要覧にあるように、クラブ会員を5人ずつのグループに分けて、各グループが年度前半に新会員1名を確保するようなやり方で努力して欲しいということでした。

◎外部拡大については=各分区代理から分区内における新設見込みについて発表があったが、庄内分区では、藤島、松山の2町が今後クローズアップされるであろう。

◎財団増強については=向笠R.I. 会長は、大変異例のことだそうですが、浜田、作田両ガバナーの年度に2回続けて第253地区の年次大会にR.I. 会長代理としておいでになった程山形を懐かしみ第2の故郷とも思っておられる。私達第253地区は、会員の増強でも、外部拡大でも、またロータリー財団増強でも成果を挙げて、向笠会長を精神的にバックアップして差し上げたい。例えば香港クラブでは会員数の倍のポールハリスフェローが居るが、第253地区は、アジア地区の平均よりも低い状態です。今年のカバナーはロータリアン1人当たり50ドルを目標としているが、現在レートが238円ですが、後半には250円位になるだろうから早く出した方が得だと云うような話がありました。特にポールハリスフェローについては、1回だけでなく、何回もなれること、他人のために拠出することもできることも説明があり、当クラブの張会員が非常に貢献をされている功績を紹介されました。

米山奨学金

鈴木 弥一郎君

○本日の米山奨学金については、15,045円ご協力を頂き有難うございました。

出席委員会

佐藤 順治君

○出席率は是非90%台にする為に、例会に出席出来ないときは、メイクして頂きたいと思っております。

ビジター

温海R.C. 今野義介君、本間毅君

鶴岡西R.C. 野口弥君、長南朋養君

(今週の担当者 松田 貞夫)